

投稿年月日	平成 21 年 8 月 18 日	投稿者	県外在住 男性
ご意見・ご提案 内 容	<p>5月のゴールデンウィークに原城跡を訪ねる事ができました。私の先祖が対岸の天草市大江であったことから、「島原・天草の乱」は、日本の歴史上悲惨な戦いであったことを知っていました。単なる内乱の史跡に留めるのではなく、普遍的な問題を考えさせられる貴重なモニュメントであると考えます。</p> <p>ここから、御市での率直な意見を申し上げます。</p> <p>最初に案内してもらったキリシタン史跡公園は、車庫の中に並べられていて驚きました。また、そこへの進入路が狭すぎます。</p> <p>次に案内してもらったカマボコ型の吉利支丹墓碑は、ガラスの囲いをされているのですが、周囲に雑草が伸びて整備が行き届いていない状態でした。</p> <p>原城へ期待して行きましたが、ここが歴史遺産に申請している予定の場所にはあまりにも無造作にありました。これほどの史跡がこの様に取り扱われている例も非常に稀なのではないでしょうか。</p> <p>世界へ誇れる遺産を持った土地に住まわれていることを誇りと愛着を持っていただきたいと思います。また、その意味の深さをご理解され日本各地へ、韓国等の海外へ紹介してほしいと思います。</p>		
回 答	<p>今回訪ねられた、本市の国指定史跡である「原城跡」「日野江城跡」「吉利支丹墓碑」は「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」としてユネスコの世界文化遺産暫定一覧表に登録され、現在本登録に向けて推進事業を進めているところでございます。</p> <p>キリシタン時代の「明」と「暗」を象徴するものは、この南島原市に凝縮されています。キリシタン時代の「明」といえば日野江城下のセミナリヨを中心にした天正遣欧使節という偉業であり、その対極にある「暗」を象徴するものは原城を主舞台にした島原・天草一揆ということができます。</p> <p>天正遣欧使節は、日本を世界に文明国として認知させた一大偉業であり、その対極の島原・天草の一揆は近世江戸時代が鎖国へと向かうことを決定づけた一大争乱でありました。ともに中近世日本史上の画期をなす重大な歴史事項であります。</p> <p>このようにこれらの遺跡は、キリシタン文化の栄光と挫折とを物語る顕著な普遍的価値をもつ記念物であり、世界遺産として欠くことができない構成資産であると思っております。</p> <p>原城跡では、平成4年度から発掘調査を行い、従来、文字史料や絵図資料などから分析されてきた原城と島原・天草一揆を、出土品からも究明することが可能になってきました。日野江城跡でも貴重な遺構が発見され、キリシタン時代の性格や当該期の有馬地域を解明する資料となっています。</p>		

	<p>また、発掘調査の成果をもとに、平成 10 年と平成 20 年にはシンポジウムを開催し、学融合の視点から諸史・資料の検討を行い、改めて原城及び島原・天草一揆の全貌を捉えることで、その位置づけや評価の再検討を行いました。</p> <p>日野江城跡では、平成 7 年度から二の丸一帯で発掘調査を実施し、破壊され埋められていた石垣や階段遺構、多くの陶磁器などが出土しております。階段遺構は、約 100 メートル以上に及ぶ直線的な階段となり、大手と推定される所から本丸下まで一挙に駆け上がる安土城に類似したような階段でありました。この階段の北側からは、墓石などの石塔を多く使った階段が出土し、有馬氏の権力と仏教を排してキリスト教を保護した歴史がうかがえる遺構と位置づけています。この階段の袖には、切石をつかった石垣も出土し、当時の城では類を見ない独特な技術で、南方の地域との交流を物語る貴重な資料であります。現在、検出した遺構などは保護のため一旦埋め戻しをしており、数年後の本格的な整備では顕在化させる所存であります。</p> <p>「吉利支丹墓碑」「原城跡」「日野江城跡」の遺跡整備の着手及び、世界遺産登録のためには、個々の遺跡の文化財に対する価値の証明や、将来にわたって資産を守っていくための保存管理計画を策定しなければなりません。さらに、保存管理計画にもとづき、文化財の保存・活用の課題を見据えて、新たな理念のもとに、遺跡を整備するための整備計画の策定を行うようにしなければなりません。</p> <p>現在その計画を策定中であり、原城跡の整備着手までにはあと 3～4 年を予定しております。それまでの遺跡の保護管理としましては、除草などを行い観光客の方が散策しやすい環境を維持していく所存であります。</p>
担当課	教育委員会 世界遺産登録推進室